

第2回柴田町男女共同参画推進審議会 意見

○平成31年度・令和元年度事業計画（中間報告）について

- ・商工会が開催する創業支援セミナーについて、過去の同セミナーを受講した女性で、実際に起業された方は何人くらいで、どんな職種で活躍しているのか。
→近年の実績として、平成29年は2名（美容業・飲食業）、平成30年は2名（美容業・食品販売業）、令和元年2名（トリミングサロン・自動車販売業）でそれぞれ活躍している。
- ・地産地消の推進について、産直市、縄文の幸、柚子のあぜ道 雨乞のかえる、さくらの里、プチみちの駅とみかみ、太陽の村などは、そこそこのお客さんで賑わっている。しかし、それぞれの場所が点在しているので、高齢者にとって行くのは困難である。
岩沼市に「みんなの家」という名前で、ランチ営業、農産物や加工品などの販売をしているお店があり、月曜日の1コインランチはいつも予約でいっぱいである。
柴田町も空き店舗を利用して、農家レストランを開くべきである。町の中で誰でも歩いて行ける場所に、アンテナショップ的なお店があると便利である。また、シェアキッチンのように曜日ごとに料理人が変われば、料理が得意な主婦（主夫）が楽しく活躍できるのではないだろうか。
- ・保健師、管理栄養士について、保健師の採用後取り消しとある。追加募集に応募はなく、2名が退職している。
管理栄養士募集で8人の応募者全員不合格なのはなぜなのか。どちらも大切な仕事だが、保健師、管理栄養士は現在足りているのか。
→管理栄養士8人全員が不合格だった理由は、管理栄養士の採用基準を満たす者がいなかったため。保健師は今年度2人採用となった。
- ・様々な企画や行事の規模縮小、延期、中止の対応で混乱している中、このような中間報告書までこぎつけたことに痛み入る。経年変化のデータや状況も掲載されているので、各担当課の様々な努力と住民の意思決定による動向の変化が見えてくる。
- ・各課の努力が町民の生活基盤の支えになっていることを確信し、更に前進していくことを希望する。

- ・福祉避難所運営設置マニュアルの作成について、平成30年度に比べ「…自治体で作成している福祉避難所のマニュアルなどの情報収集および町と協定締結している福祉避難所の備蓄状況等を確認しました」という実践結果があがっているため、ひとつの評価だと考える。今回、特に備蓄状況の確認が行われたということは、非常に踏み込んだ実践だったと受け止めている。報告を受けて、さらにどのような品目なのか、どのくらいあるのか（例えば、水：2Lボトル〇〇本、食料：△△…）情報公開してもらおうと、住民には安心材料となる。

この備蓄を維持管理するのも予算化と労力が必要。実際、避難所では生命体を維持していく水や食料は助かるはずである。新型コロナ対応で見えてきた消毒薬やマスク、衛生材料も避難所では必須アイテムである。『福祉避難所運営物資の保守点検』として事業名にあげると、平成31年度・令和元年度の実践報告は整合性が取れる。次年度の検討にしてほしい。また、予算化しているとは思いますが、毎年すべてのものに有効期限があるので保守点検をし、有事の際にわが町の備蓄は素晴らしいと評価されるようにしたい。

- ・自主防災指導員の養成について、1月11日主催の防災指導員フォローアップ講習会に11名の女性参加があったことは喜ばしい。平成30年度の報告で行政区の中で防災委員が不在な行政区は残り1つとなっているが、つまりそれは現状維持だったのか。女性の生活眼は素晴らしいものがある。防災委員2名体制で、そのうち女性が必ず1名入るような仕組みづくりができると安心安全な地域生活に生きてくる。

また、予算は計上されているのか見えてこないが、防災委員の情報交換会を1回/年実施し、それぞれの行政区の悩みや取り組みを「わが事」として共有することも地域包括の一助になると考える。自然災害、ウイルス（感染症）災害等、リスクは地域の中にたくさんあるので、自主防災委員の活動は充実させてほしい。

- ・女性のキャリアアップに資する「女性社員キャリアアップ研修」や女性の就業支援を目的とした「創業セミナー」には、一定の女性の参加はあるとの報告が掲載されている。しかし、キャリアアップ研修に参加した女性が、その後会社においてキャリアを活かした活躍ができているのかとか、キャリアが認知され、会社での職域や職階の向上につながったのか等をフォローする調査が行われていないため、当該事業の効果判断の測定ができにくい。

創業セミナーについても、受講後の実創業の件数や創業に至らなかった者へのフォロー等について追跡し、当該事業の実効性を高める必要を感じた。